

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2025 年 4 月 28 日	
所属部局・学年	野生動物研究センター
氏 名	後藤優佳

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域) 神戸港～函館港	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験) 海棲哺乳類調査実習	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで) 2025 年 4 月 20 日 ～ 2025 年 4 月 24 日 (5 日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士／〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏) 北海道大学水産学部附属練習船おしよ丸, 三谷曜子教授	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由) 写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くて結構です。	
1. 実習概要 本実習は、海棲哺乳類の目視調査および海洋観測機器の操作等を通じて、海洋におけるフィールドワークの基礎的技能を習得することを目的として実施された。調査は神戸港を起点とし、大阪湾から外洋にかけて航行しながら実施された。	
2. 日別記録 4 月 20 日 (第 1 日) 14 時頃、乗船後に船内での安全講習および設備説明を受けた。16 時に出港し、大阪湾内にて約 1 時間の目視調査を実施したが、海棲哺乳類の出現は確認されなかった。当日は波浪も比較的穏やかであり、船体の揺れは小さく、快適な環境での航行であった。なお、初回の船上生活に備え、船酔い対策として多数の軽食を持参したが、油分の多い食品が中心であり、船酔い時に適したゼリー類等の準備が不十分であった。	
 おしよ丸の外観 (神戸港にて)	 アッパーブリッジからの風景
4 月 21 日 (第 2 日) 当日朝の目視担当は 9 時 30 分開始と決定された。朝食は白米、味噌汁、簡便な副菜のみであり、乗船者の中には食事中に船酔いの症状を訴える者も確認された。午前中は海棲哺乳類の出現は見られなかったが、16 時頃、ハンドウイルカ (<i>Tursiops truncatus</i>) と推定される群れ (10 頭以上) を確認した。イルカは船の前方に突如出現し、船体下部を通過した後、視認不能となった。	

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



スマホで撮影したハンドウイルカ



目視の様子

4月22日（第3日）

本日は船員によるCTD (Conductivity, Temperature, Depth) 装置の深海投入（最大 3000m）作業が午前中に行われ、目視調査は午後から開始された。天候は良好であり、海況も穏やかであった。目視調査中、自身は直接確認できなかったものの、ヒゲクジラ類のブローおよびゴンドウクジラ類の群れが確認されたとの報告を受けた。

4月23日（第4日）

実習終盤となる本日は、午前中に降雨があり、目視は室内からの実施となった。午後は霧の発生により視界が制限され、目視調査の有効性は限定的であった。早朝にはザトウクジラ (*Megaptera novaeangliae*) と推定される個体のブローが報告されたが、確認には至らなかった。また、午後は船舶の往来が多い航路を航行しており、目視対象種の出現頻度は低かった。海棲哺乳類の明確な視認には至らなかったが、ミツユビカモメ (*Rissa tridactyla*) が船上に飛来し、一時的に滞在する様子が観察され、乗船者の間で関心を集めていた。

4月24日（第5日・最終日）

本日は9時頃に下船予定であったが、6時～7時に最終目視調査を実施した。目視対象種の出現は確認されなかった。下船前には乗船中に使用した設備の清掃作業を行った。担当箇所である廊下は想定よりも面積が広く、作業には一定の労力を要した。

3. 総括

本実習を通じ、事前学習にて得た知識を海上実地で適用する機会を得た。ハンドウイルカ群との遭遇や観測機器の運用状況を近くで観察することができ、座学では得られない多くの学びを得た。今回の実習を通じて得られた知見と経験は、今後の学習や研究活動において大きな糧となるものであり、今後の学びに役立てていきたい。

※メンター（PWS プログラム指導教員）が確認済の報告書を【report@pws.wrc.kyoto-u.ac.jp】宛にご提出ください。

6. その他（特記事項など）

本実習に参加するにあたり、PWSの皆様には多大なるご支援を賜りました。心より感謝申し上げます。また、函館までの航海を安全に導いてくださったおしよろ丸の船員の皆様、そしてご指導いただいた三谷先生、TAの鈴木さんにも、この場をお借りして深く御礼申し上げます。